

説明等要旨と質疑応答まとめ

（福野地域のまちづくり検討会議からの提言、

及び、提言実現検討組織での検討の経緯の説明要旨 政策推進課 竹中課長）

本日の意見交換会開催に至った経過等について、簡単にご紹介させていただきます。

7月1日から、南砺市役所は、福光庁舎を統合庁舎として新たなスタートを切ったところであるが、この庁舎機能の再編に関する議論については、今から5、6年前から始まっている。

庁舎再編に関する議論を進めていくに当たり、既存の分庁舎がなくなること、行政サービスの低下や、まちの賑わい、あるいは、地域の活性化が喪失する、といったご意見や、市議会からは、地域の賑わいや活力の低下を防ぐためのまちづくり対策の方向性を十分検討せよとの、提案・要望を承ったところである。

そこで、市では、平成30年2月に、分庁舎のある4つの地域に「まちづくり検討会議」を設置し、約1年間にわたり、各地域の持つ課題や魅力、これからのまちづくりの方向性、そして、その方向性の実現に向けた具体的な取り組みについて、精力的にご検討をいただき、同年12月に、それぞれ「まちづくり検討会議からの提言書」として取りまとめていただき、市長に提出いただいた。

この福野地域の提言書の内容として、1つ目には「まちの優位性を活かした新しい核となる拠点づくり」、2つ目には「駅周辺・空き家・空き店舗・空地の活用」、そして3つ目として「人口減少を見据えた次世代につながる持続可能なまちづくり」が盛り込まれている。

これら3つの方向性を基に、昨年度から「拠点づくりグループ」「空き家・空き店舗・空地の活用グループ」「人づくりグループ」の3グループに分かれて検討を進めていただいております、これまでに30回近くの会議を行っていただいている。検討メンバーの皆様には、自主的にご参加いただいているものであり、心から感謝申し上げる次第である。

本日は、これら3グループの皆様方に、これまでご検討してきていただいた内容について、順次説明をしていただくこととしている。説明をお聞きいただき、その後、質疑応答の時間も設けてあるので、お一人おひとりが、今後の福野地域におけるまちづくりについて、ご自身のこととしてお考えいただき、活発なご意見をいただければ幸いに存じますので、よろしくお願いします。

（人づくりグループ 報告内容要旨 発表者：浦井氏）

私たちのグループは、人に焦点を当てて、まちづくりについて考えてきた。

◆目的 人口減少を見据えた次世代につながる「持続可能なまちづくり」

◆方向性 ①20～30年先を見据え、若い世代にとっても魅力あるまちづくり（南砺市を「暮らす場所」として選択出来る）を行う。

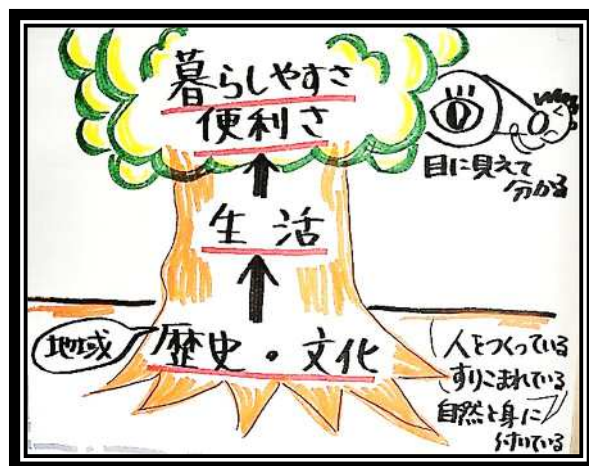
②持続可能なまちづくりを担う。

主体的に考え、行動する市民を育てる、ということ。私たちだけが何かを行う、ということではなくて、若い世代にもまちづくりに興味を持ってもらうような人材を育成することも、私たちのグループが大事にしている点である。

説明等要旨と質疑応答まとめ

●「ふくの一鯉プロジェクト」

中学生・高校生の若い世代をターゲットに、もし、進学・就職等で、一旦、福野地域や南砺市の外に出て、いつか大きく成長して、「愛着のあるこのまちに戻りたい！住むことは出来なくても応援したい！」という気持ちにさせる、魅力あるふるさとづくりをしていきたいと思っている。検討を進める上での話の中では、子ども達に、福野地域から出るなとは言えないし、外に出て、いろんな知識や経験を積んでほしいが、一方で、その知識や経験を持ち帰って来てほしいという思いがある。その時に、南砺市や福野地域を「住む場所」として選んでもらうためには、暮らしやすさや便利さではなく、実は、みんなが一番戻ってきたいと思うのは、木で言うところの「根っこ」の部分、地域に根ざした歴史や文化、そこを土壌にした家族との生活、この辺りに南砺市らしさや福野地域らしさがあるのではないか、というように考えた。私たちは、これを、サケが生まれた川に戻ってくることに例えて、私たちも、福野から出た子ども達がまた福野に戻ってきてほしい、という想いで、この取組を「ふくの一鯉プロジェクト」と名付けて、取組んでいこうと思っている。



●「ふくの一鯉プロジェクト」の取組内容

まず1つ目は、「MANA-VIVA（学び場）」。

理念として、・私たちは「心の根っこ（Roots）」にたっぷりの愛を注ぐことで、能動的な生きている地域を創造する。・私たちは 地域の宝をつなぎ、共に学び合いの輪を拡げ、様々なネットワーク構築をはかる。これは、木の根っこや土壌の部分をしっかり繋いでいく、というイメージである。

また、基本方針として、1. 多彩な「人」資源を発掘していくこと、2. 地域に愛着がもてる「学びの場」を提供すること、3. 「人」のネットワークを構築すること、4. 能動的な、自分から動く「人」をつくる「人づくり」。これらの基本方針を見据えて、活動を進めていこうということに決めた。

具体的な活動内容としては、まずは、福野の宝である「人」を紹介するWEB ページを作成。達人や匠など、福野の多彩な人達を紹介するために、話を聞いて取材をし、その記事をWEB ページに掲載する、というもの。

次に、学びの場の提供。このWEB ページに掲載されている「人」達を学びの場に連れていく、もしくは、その「人」のそばへ行って教えてもらう、という、学びの場をコーディネートすること。そして、ゆくゆくは、福野地域にいらっしゃる様々な人を紹介する中から、人材リストとしてWEB ページの中にデータベースを作成していけたら、と考えている。この人材リストを用いて、学校や各種団体へ活用や紹介などといった営業に回って、私たちの取組を周知し理解していただくことを一番の目的に掲げている。

私たちがイメージしているのは、1つは、福野地域にいらっしゃる様々な分野の達人や匠と言われる人達を探し、「この分野ではこんな方がいらっしゃるよ」「こういう話が聞ける、あんな体験が出来る」といった人材の情報を一元化し、情報発信のお手伝いをする、ということ。もう1つは、コーディネートの機能ということで、学びの場を提供していったり、主に学校の授業に人材を紹介したり、繋いだり、といった、繋ぐという役割を果たすことが出来たらよいと考えている。

説明等要旨と質疑応答まとめ

●実施に向けた課題

1つ目は、活動資金。充実したWEBページを構築するためにも、ある程度のお金をかけた方がより良い内容になるのではないかと考えている。また、学びの場をコーディネートするということで、講師となっていた達人や匠の方への謝金も必要ではないかと考えている。全てボランティアで賄うにも限界があると思っていて、活動資金の捻出方法が課題である。これまでの会議の中では、イベント出店や寄付金を募るという意見もあったが、現在のコロナ禍において、どのような方法が考えられるのかまだまだ検討の余地があると思っている。

2つ目は、サポーターが必要ということ。私たちの活動を、まずは認知してもらうことが必要で、活動を知らせてくれる人や事務局として活動してくれる人がまだまだ足りないと感じている。人づくりグループのメンバーは、現在は全員で5名なので、たくさんの「人」の話を聞いて、記事を起こして、WEBページを更新する、といった作業に掛けられる時間に対して人手が足りていない現状である。この点についても、PR活動をしながら、お手伝いしてくださる方をどのように募集するのが課題である。

3つ目の課題は、WITH コロナとして、対面型から非対面型に切り替えたり、リアルからオンラインへ対応したりしていかなければならないということ。3月までに議論していた内容と現状が大幅に変わってしまったので、改めて検討することが必要だが、大切なのは、今、出来る事を、出来る範囲で良いので続けていこう、ということだと考えている。人づくりは永遠に続いていくことなので、このグループの歩みを止めないことが大切だと思っている。

●今後のスケジュール

まず、今年度内の活動目標としては、①まだ準備段階のホームページをしっかりと作成する、②達人・匠を発掘し、取材の交渉、記事の更新など、ホームページの内容を充実させること、③事務局機能を担ったり、企画や準備の段階を手伝ったりしてくれる仲間のスカウト活動が出来たら、と考えている。

●最後に

私たちは「ふくの一鯉プロジェクト」として、子どもたちに、福野の魅力や暮らしの魅力をよりたくさん体験していただいて、子どもたちだけではなく、子どもを育てている私たち親世代も含めて、まちの良さ、素晴らしさを体験・実感してもらう機会を作りながら、いずれ子どもたちが地域に戻ってくる、というようなことを実現するための活動をしていきたいと思っているので、地域の皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

(空き家・空き店舗・空き地の活用グループ 報告内容要旨 発表者：北川氏)

私たちのグループでは、①JR 福野駅周辺の整備、②福野庁舎の利活用、③空き家・空き店舗の活用、について検討を進めてきた。

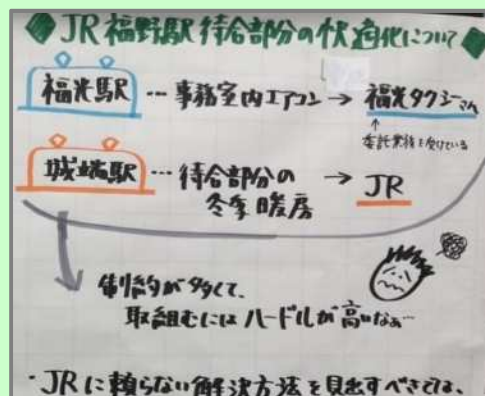
①JR 福野駅周辺の整備

JR 福野駅の待合には、空調がなく、薄暗いので、高校生が列車の待ち時間に勉強したくてもしにくそうな環境である。また、駅前道路の幅が狭く、歩道もないので、高校生の登下校時には通行に支障をきたしている。どうしたら、高校生が安全に通行し、気持ちよく駅の待合を利用してもらえるのか

説明等要旨と質疑応答まとめ

について、検討してきた。

まず、福野駅の待合の快適化について、検討を始める前に、他の駅の現状を確認した。JR 福光駅では、事務室内にはエアコンが設置されているとのことであるが、その管理は、改札等の業務委託を受けている福光タクシー(株)さんが行っているとのこと。JR 城端駅の待合については、冬季間に暖房が設置され、その費用は JR が負担されているそうである。いずれの事例にしても、これまでの例を聞くと、JR と折衝する中で、JR 側からの制約が多く、設置するまでに相当の時間を費やしているとのことであり、実現に向けて取組むにはハードルが高い様子が分かったことから、JR 福野駅待合部分の快適化については、これ以上の議論は進んでいない状況。



また、駅前の道路については、地域づくり協議会や商工会からも、福野駅裏側の開発も含めて行政に対して要望が出されており、地元での議論が十分になされていることから、こちらでの議論は不要だろうとの結論に至っている。

②福野庁舎の利活用

今年の 7 月に市役所の分庁舎が福光に統合され、現在、福野庁舎には市民センターとして、窓口業務だけが機能している状況である。福野庁舎の建物自体は、まだまだ使えると思われる。しかし、空調などの設備の老朽化のための、ランニングコストが掛かり過ぎていて、維持するだけでも難しいということや、市の公共施設再編計画により、市の所有する公共施設の面積を半分にしなければならないということを踏まえると、庁舎建物は解体し、その跡地の利用を考えた方が、福野の将来のためになるのではないか、とのことで検討を進めてきた。

結論から言うと、庁舎跡地の活用については、住宅地として分譲するのが良いのではないかと、いうことに至った。その理由としては、①福野のまち中には広大なファブリカ跡地があるので、例えば、福野の再開発等はその場所で行ってもらえば良いだろう、ということ。②ショッピングセンターピステ跡地などのまち中の宅地分譲地の売れ行きが良好で、まだまだ、福野に住みたい、家を建てたい、というニーズがあるのだろう、と予想出来ること。③民間アパートなどの建設が多く、若い世代も多く住んでいることから、今後、お子さんが生まれて次の住まいについて考えた時に、福野を選んでもいいような土地が必要ではないだろうか、と考えられること。問題だったのは、庁舎の敷地は全て借地なのではないか、という意見であったが、市に確認してもらったところ、借地は一部分のみで、ほとんどは市有地であるということであり、宅地分譲するには支障がないだろうと判断した。

そこで、この庁舎跡地を造成したら、どのくらいの戸数が建てられるのかを専門家に試算していただいたところ、庁舎建物のある箇所と庁舎南側の駐車場部分とを併せて造成した場合、1 区画 70～80 坪で、36 区画取れることが分かった。まだ、庁舎建物の解体から宅地分譲まで、実際にかかる費用の試算もしていただいたところ、庁舎の解体費用を含めても、民間事業として成り立つほどの収支になりそうであることが分かった。但し、条件が 2 つあって、1 つ目が、4 年から 5 年の間に宅地を完売しないと売れ残ってしまう可能性が高い、ということ。ちなみに、この試算をしていただいたのが 1 年ほど前なので、4 年から 5 年と言っていたのが、3 年から 4 年になる。産業廃棄物処理費用を含めた解体費用が高騰している、というのが主な理由だが、その一方で、土地の値段がどんどん下がってきているので、収支のバランスの崩れる分岐点が 3 年から 4 年の間になる、ということである。2 つ

説明等要旨と質疑応答まとめ

目の条件は、現在、福野庁舎で業務を行っている、福野市民センターの位置をどうするのか、ということ。市民センターをどこかに移転させないと、建物の解体が出来ないということで、私たちはその候補地として、拠点づくりグループで検討中の複合交流施設、または、福野文化創造センターヘリオス、または、ショッピング ア・ミューを挙げてみたが、せっかくならば、拠点づくりグループで検討中の複合交流施設に移転するのが適当なのではないか、という結論に至った。仮に、拠点づくりグループで検討中の複合交流施設が整備されるとした上で、宅地の販売開始までにどのくらいの期間を要するかを検討してみると、通常のやり方では6年はかかってしまう。これでは、先ほど3年から4年のうちに完売を、と言ったが、それをとくに過ぎてしまう。出来れば、今年度中に複合交流施設の整備計画を立てていただいて、4年後には庁舎跡地を宅地として分譲出来るようになれば良いのだろうが、それもなかなか難しいのかもしれない、という結論に至っている。

また、市有地なのだから、民間事業者のような一般的な分譲をするのではなく、ある程度の付加価値を付けてはどうか、との意見から、どのような付加価値が考えられるのか検討してみたところ、市エコビレッジ構想や、昨年度、南砺市が「SDGs 未来都市・自治体モデル事業」に採択されたことを受けて SDGs の観点を盛り込み、そこに福野らしさを加えてはどうか、ということで意見がまとまった。例えば、ゼロエネルギー住宅、太陽熱利用、薪ストーブ、ペレットストーブ、蓄電、といったエネルギーに着目したエコタウンだとか、また、例えば、屋敷林や黒い瓦屋根などのこの地方にある特長を活かした、デザイン性を統一した新しいまち、というものが適しているのではないだろうか。

③空き家・空き店舗

昨年度、市商工会の協力のもと、「リノベーションまちづくり研究会」を立ち上げて、商工会員だけでなく、様々な立場の20名ほどの方に参加していただいた。そこでは、福野のまちの特長や私たちが気付いていないような良いところ、これから目指していくべき点、などについて話し合い、福野エリアの新しいビジョン作りに半年ほどかけた。福野の特色をキーワード化したり、近隣周辺地域と比較して福野はどんなところなのか、どういう方向で進んでいけば良いのかを検討したり、SWOT分析をして私たちの暮らしと日常に関する部分をどのように伸ばしていけば良いだろうか、など、講義を受けながら検討を進めていった。その中で、キーワードに沿った取組として、例えば、イベントや商売やツアーなどのアイデアを出してきた。

これまでは、「こんな事をやりたいね」とアイデアを出して、それで終わることが多かったが、しっかりと事業化していくために、今年度、市主催で「リノベーションスクール」を実施する予定となっており、福野をテーマにして開催される予定。今回、報告させていただいている「人づくりグループ」、「空き家・空き店舗・空き地の活用グループ」、「拠点づくりグループ」の3グループに、3つのユニットを割り当てて、これまで検討してきた事業内容をブラッシュアップさせていくことにしており、例えば、「人づくりグループ」では事業化に向けた課題を挙げていたが、それらをいかに解決して、事業を前に進めていくのか、ということ、外部講師を招いて開催していく予定である。

（拠点づくりグループ 報告内容要旨 発表者：西氏）

この構想案は、「まちの優位性を活かした、新しい核となる拠点づくり」という、福野地域のまちづくり検討会議からの提言で示されている方向性に基づいて、検討を重ねてきたもの。まちづくりに関しては、いろいろとご意見があると思うが、福野庁舎に代わる新たな拠点施設が必要だ、ということについて、福野地域としての思いを一つにしていけることが必要なので、検討内容をしっかりと聞いて、

説明等要旨と質疑応答まとめ

知っていただいて、この方向で良いかどうか、皆さんからご意見をいただきながら、進めていきたい。

●福野地域のまちの優位性

保育園、小学校、中学校、高校、体育館、図書館を含むヘリオスなどが文教ゾーンとして中心市街地にまとまっていること、それから、川田工業、コマツ NTC、三協アルミなどの大手企業や砺波土木センターなど県の出先機関があり、人口減少率は市内で最も低いことが挙げられた。

●福野地域のまちの課題

空き家、空き店舗、ファブリカ跡地、庁舎跡地などの活用、それから、若者の定住化対策と共働き世帯の支援や、高齢者の居場所づくりなどの必要性が挙げられている。

●優位性や課題を踏まえた上での、拠点づくりの視点

①庁舎が無くなった後のまちの活性化。ここでの“まち”は市街地を指す。それから、②行政センター機能の見直しに伴う、市民センターの移転先、③産業文化会館の老朽化に伴う、小規模多機能自治の活動拠点整備。産業文化会館は、福野中部まちづくり協議会の活動拠点となっているので、今後の取り組みを併せて考えていかなければならないということ。それから、④まちの課題解決。福野中部地区の住民アンケートでも重要視されていることが示された、放課後児童の居場所づくり、子育て支援、高齢者の居場所づくりや通所型サービス B 型事業、加えて、サークル活動等の生涯学習の推進、ということが、共働き世代の支援や、定住化の促進に必要ということ。そして、⑤幼児から高齢者までが交流出来る空間、賑わいの創出といったことが挙げられる。これらのことを実現するために、どういった機能が複合交流施設に必要なのか、ということを検討した。

●複合交流施設の規模および機能

まずクリアしなければならない課題として、公共施設再編計画があり、「公共施設再編計画の視点から、福野地域内でのスクラップ＆ビルドで 50%を削減目標」とする。福野地域内だけで考える問題ではないかもしれないが、近い将来、福野地域内で廃止されることになっている施設の合計面積 8,190 m²に対して、先ほどの拠点づくりの視点を考慮して、必要な機能を盛り込んだ複合交流施設を検討してみたところ、1,865 m²ほどの広さになるのではないかと試算しており、余裕を持って、クリアしていると考えている。

そして、検討した複合交流施設に必要な機能というのは、①福野中部まちづくり協議会、②市民センター(市民窓口)、③高齢者交流スペース、④児童学習スペース、⑤子育て交流スペース、⑥サークル活動等スペース、⑦テナントスペース、⑧エントランスとギャラリースペース、⑨そのほか芝生広場、駐車場など、ということに、まとまった。

●複合交流施設の整備の手法や管理

整備位置については、小学校、保育園、産業文化会館に近く、まちの中心地であるということから、ファブリカトヤマの工場跡地で整備すべきであるということ。

整備手法については、公民連携方式も含めて検討するということ。1つ目の案は、市による複合交流施設単体整備、2つ目の案は、公民連携による、住宅施設との一体整備、という可能性。

管理運営については、福野中部まちづくり協議会が主体となった管理運営を検討し、維持管理費等については、住民自治推進交付金や市の委託料、テナント収入、施設利用料などを充てる試算もして



説明等要旨と質疑応答まとめ

みた。

●複合交流施設が整備されることによって解決出来ること

①庁舎の取壊しに伴う市民センターの移設場所が確保出来るということ、②産業文化会館の老朽化に伴う代替施設が確保出来るということ、③福野中部まちづくり協議会の活動拠点が確保出来るということ、④地域の課題である高齢者の居場所づくりや子育て支援体制を充実し、共働き世帯を支援する定住化促進のまちづくりが実践出来る、ということ。

●整備を進める上で留意すべき点

ファブリカ跡地で速やかに複合交流施設を整備し、市民センターの移設について手戻りのないようにする、ということも、無駄な経費を抑えるということからも大事なポイントであると考えている。

●この構想案を進める上での要望

ファブリカ跡地や庁舎跡地等の住宅開発について、市外からの就労者が多い福野地域の優位性を活かし、定住化を促進するため、用途地域内での住宅購入者に対する市の助成制度の拡充が必要ということや、庁舎跡地について、4～5年以内に現庁舎を撤去し、住宅開発を進めること、といったことも、同時に対応を検討していただくことが大事であると考えている。

また、旅川福祉交流館の廃止に伴う、既存の福祉事業やサービスの低下が危惧される。この点についても、同時に対応を検討していただくことが大事であると考えている。

●最後に

福野地域の新しい核となる拠点づくりの構想案としては、このような内容である。たまたま、この広い空き地がこの場所にあり、たまたま、産業文化会館が老朽化で存続が危うい、ということかもしれないが、このタイミングに合わせて、福野中部まちづくり協議会の活動をもっと活発化していかなければならないと思うし、いずれ、人口減少には歯向かえない中で、10年、20年先を見据えて考えれば、福野中部地区の交流センターというよりも、福野地域全体の交流センターという形を想像していただければ、これからのにぎわいの必要性をイメージしていただけるのではないかなと思っている。

みんなの思いを一つにして、福野地域の、にぎわいあるまちづくりを、オール福野で頑張っていきたい。

(質疑応答)

Q1. (上川崎、前田氏)

1年も前から検討をスタートされて、仕事の合間を縫って検討を進めてこられたそうで、各グループともに、大変興味深く、有意義な話だった。福野地域、ひいては、南砺市の中心になるが、その中において、人、もの、カネ、どうやって人を集めてくるのか、どうやってみんなに引き継いでもらうのか、高齢化社会が進む現状での市への提案が痛いほどよく分かった。

そこで、最終的に、市がどう考えているのか？例えば、宅地開発の賞味期限が4～5年だと言われている中で、市は何もしないのか？今ほど、皆さんが提案されたことが確実に出来るのか？お金が無いから出来ないのか？この点について、市は真剣に考えてほしい。各グループの皆さんがしっかりとまとめていただいて、やりたい、と考えられた事柄も、本当に行政にしっかりと届いて、市がやってくれるのかどうか？何かにつけて、行政は、「お金が無い」と言ったり、その一方で、何かあればハコ

説明等要旨と質疑応答まとめ

ものを作ってみたり、を繰り返して、最後になったら捨てる。そして、選挙になったら、また考える。そんなことでは、福野地域は良い方向に進んでいかないと思う。

例えば、舟橋村は、転入者がどんどん増えて、出生率が上がっている、という良い手本がある。また、先日、JR が、JR 氷見線と JR 城端線とをそれぞれ JR 高岡駅で繋いで、ライトレールを走らせる、というような構想が出されたそうであり、もしそうなれば、JR 福野駅はあの駅舎で本当に良いのだろうか。近頃は、新幹線効果が期待出来なくなってきて、JR も今後のことを考えなければならないし、県も、今後のことを真剣に考えている。

そこで南砺市は、と言うと、石川県からも来訪者があるが、砺波市へもたくさんの市民が足を運んでいる、といった状況の中、市として福野地域をどのように発展させたいと思っているのだろうか。人がたくさんいる砺波市に近く、福野から南砺スマート IC の利用者が多いこの好条件を、市はどのように把握して動くのだろうか。

このように様々な課題が見えている中で、各グループの提案は大変良くまとめられており、それを市としてどのように実現していくのか、ということが今後の課題ではないだろうか。

A 1. (竹中課長)

3 グループそれぞれが、これまで1年以上に渡って活発にご検討してこられた。市としては、これらの市民有志の方々が考えていただいた提案に基づいて、速やかに実現の可能性について調査を始めていきたいと考えている。先ほども、空き家等活用グループからの報告の中にあつたとおり、今年度、リノベーションスクールという事業を立ち上げて、これら3つのグループの提案内容について、更に事業化に向けた検討を、専門家の意見も交えて行う予定としている。その中で、しっかりと方向性を定めて、市としても、少しでも早く着手出来るような体制で進んでいきたいと考えている。

(参加者の合意確認 福野地域地域づくり協議会連絡協議会長 澤田会長)

今ほどは、貴重なご意見をありがとうございました。

私もこの検討組織の一員として入っているが、福野地域の将来に向けて、「人づくりグループ」と「空き家等活用グループ」については、特に若い方々が中心となって取り組んでいただいております、今後、さらに仲間を増やして、是非、進めていっていただきたいと思うし、これからの活動が大変楽しみである。

また、最後の「拠点づくりグループ」の中身については、複合交流施設の建設を市にお願いするという要望の内容になる。

福野中部交流センターの整備については、福野地域づくり連絡協議会からも、以前より、市長への要望事項として挙げているところだが、単に建物を整備するということではなく、私は、このファブリカ跡地の、この場所が、福野地域全体のイメージを変えるような、賑わいの拠点になってほしいと思っている。

そのためには、福野中部まちづくり協議会の方々が中心となって、この複合交流施設の交流センター機能をフル活用していただくことはもちろんのことであるが、福野地域の中心地として、地区内外

説明等要旨と質疑応答まとめ

からの協力をいただきながら、福野地域が一丸となって、将来に向けて、継続して取り組んでいけるような施設にしていくことが大変重要であると考えている。

この「拠点づくりグループ」からの構想案は、そういった福野地域全体の意気込みも含んだ内容となっているものであり、福野地域づくり協議会連絡協議会からの要望事項に代えて、最重要課題として、強く要望していきたいと考えている。少しずつ、夢から現実に向かいつつあるので、これからも皆さん方のご支援、ご指示、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

是非、このことについてご理解いただき、「拠点づくりグループ」から説明のあった内容について、福野地域の総意として進めていくことを、ご参加の皆様からお認めいただきたく、皆さんの拍手でご承認をお願いしたい。

(参加者より拍手多数)

ありがとうございます。福野地域が一丸となって、頑張っていきましょう。